

男女共同参画に関する意識と生活実態調査

報告書

概要版

平成23年12月

杉並区

目 次

1. 調査概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の構成	2
(3) 回収状況	2
(4) 報告書の見方	2
2. 調査結果の概要	3
(1) ご本人とご家族について	3
(2) 家庭生活と家族観について	4
(3) 就業状況について	8
(4) ワーク・ライフ・バランスについて	11
(5) ドメスティック・バイオレンスについて	13
(6) 男女平等意識について	17
(7) 杉並区における取り組み等について	19

1. 調査概要

(1) 調査の目的

この調査は、「男女が世代や性別を超え、互いに理解を深め、いきいきと暮らせる杉並」をめざすために策定した、「男女共同参画社会をめざす杉並区行動計画」の改定及び施策の推進をするための基礎資料とするために実施しました。

(2) 調査の構成

調査対象： 杉並区内在住の満20歳以上の男女

標本数： 4,000人

抽出方法： 住民基本台帳から無作為抽出（層化2段抽出）

調査方法： 郵送配布—郵送回収（督促はがき1回）

調査期間： 平成23年8月29日～平成23年9月20日

調査機関： 株式会社 コモン計画研究所

(3) 回収状況

配布数： 4,000人

有効回答数： 1,773人

有効回答率： 44.3%

(4) 報告書の見方

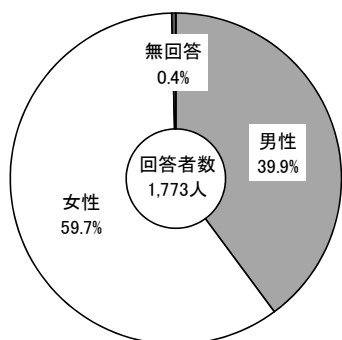
- 図表中の「回答者数」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしています。
- 回答率（%）は、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、合計が必ずしも100%にならない場合があります。
- 回答者が2つ以上回答することができる質問（複数回答）については、回答率（%）の合計が100%を超える場合があります。
- 単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を 回答率（%）の高いものから低いものへと並び換えて表示している場合があります。
- 図表番号は報告書本編と同じ図表番号となっています。

2. 調査結果の概要

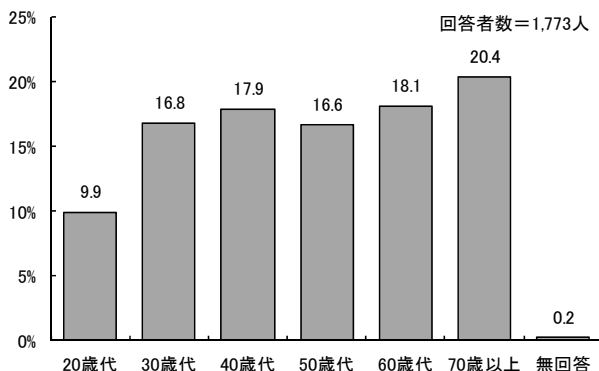
(1) ご本人とご家族について

- 性別は、「女性」が 59.7%、「男性」が 39.9%となっています。
- 年代は、「70 歳以上」が最も多く 20.4%、次いで「60 歳代」18.1%、「40 歳代」17.9%の順となっています。
- 世帯構成については、「親と未婚の子ども」が最も多く 36.3%、次いで「夫婦のみ(一世代)」23.2%、「ひとり暮らし」21.1%の順となっています。
- 結婚の有無については、「している(事実婚、別居、死別も含む)」が最も多く 68.1%、次いで「していない」25.9%、「現在はしていないが、過去に経験がある」5.0%の順となっています。
- 結婚、出産・育児を機会に退職した経験の有無については、33.4%が『ある』(「ある(結婚退職)」+「ある(出産・育児で退職)」)と回答しています。「ある(結婚退職)」が 20.5%、「ある(出産・育児で退職)」が 12.9%となっています。61.3%は「ない」と回答しています。
- 世帯の働き方については、「夫だけ働いている」が 31.7%、次いで「共働き」31.6%、「夫婦とも無職」21.8%、「妻だけ働いている」4.1%の順となっています。
- 子どもの有無については、「いる」が 58.4%、「いない」が 39.7%となっています。一番下の子どもの年齢については、「高校生以上」が最も多く 68.1%、次いで「小学生未満」14.0%、「小学生」9.9%、「中学生」3.7%の順となっています。

図表 1-1 性別



図表 1-2 年代



図表 1-3 世帯構成

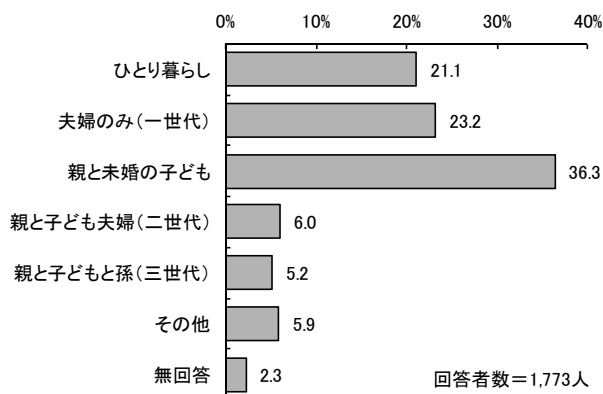
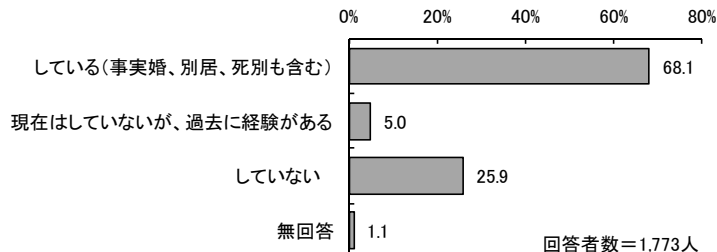


表 1-4 結婚の有無



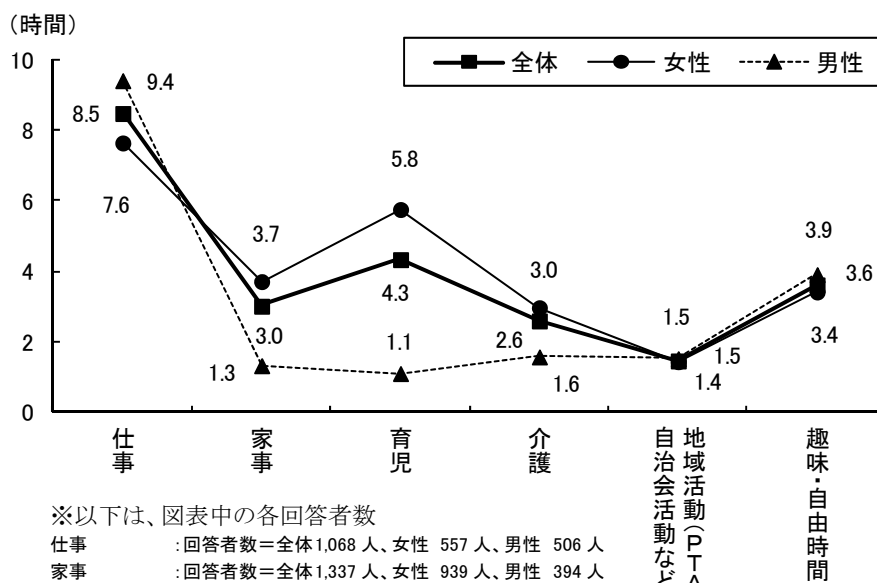
(2) 家庭生活と家族観について

● 1日の生活時間

平日の1日の生活時間をみると、最も時間が長いのは、「仕事」8.5時間、次いで「育児」の4.3時間、「家事」の3.0時間となっています。

「仕事」「趣味・自由時間」は男性のほうが長く、「家事」「育児」「介護」の時間は女性のほうが長い結果となっています。

図表 2-1 1日の生活時間【平日】



※以下は、図表中の各回答者数

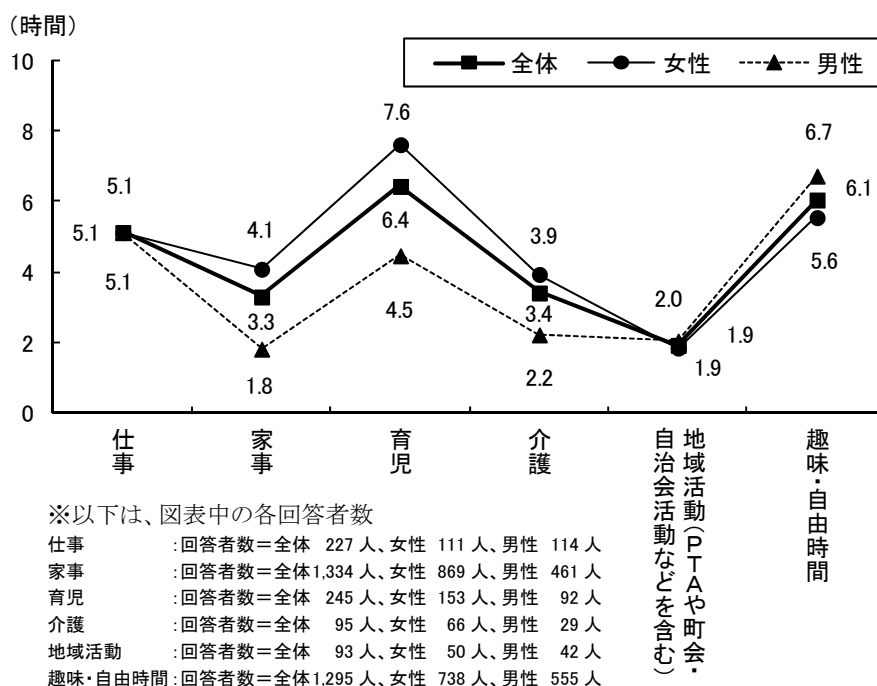
仕事 : 回答者数=全体1,068人、女性 557人、男性 506人
 家事 : 回答者数=全体1,337人、女性 939人、男性 394人
 育児 : 回答者数=全体 239人、女性 166人、男性 73人
 介護 : 回答者数=全体 86人、女性 63人、男性 23人
 地域活動 : 回答者数=全体 104人、女性 72人、男性 31人
 趣味・自由時間 : 回答者数=全体1,315人、女性 795人、男性 516人

休日の1日の生活時間をみると、最も時間が長いのは、「育児」6.4時間、次いで「趣味・自由時間」の6.1時間、「仕事」の5.1時間となっています。

「仕事」以外は、平日に比べてすべて時間が長くなっています。特に「育児」と「趣味・自由時間」の増加が大きくなっています。

休日においても、「家事」「育児」「介護」の時間は女性のほうが長い結果となっています。女性と男性の差が最も大きいのは、平日の「育児」で4.7時間の差があります。

図表 2-6 1日の生活時間【休日】

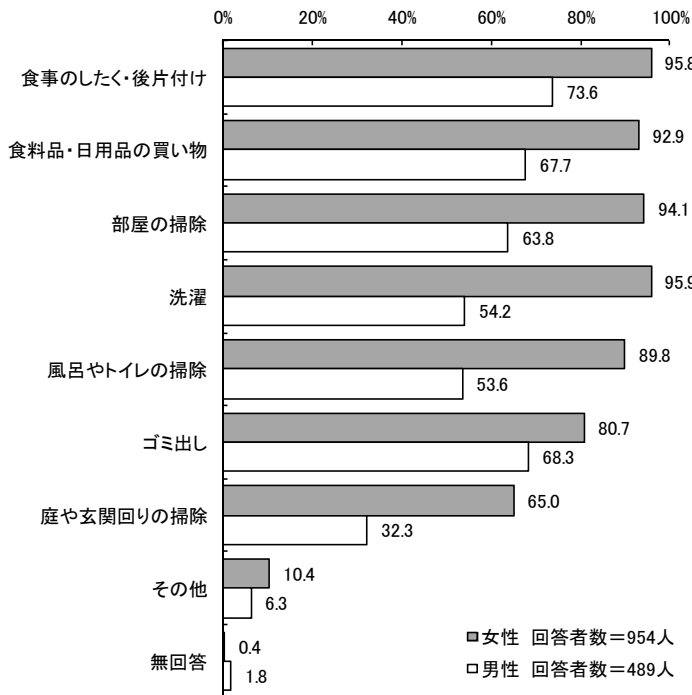


1日の生活時間のデータについて

- ※分析文及び図表中の各項目(仕事、家事、育児、介護、地域活動、趣味・自由時間)の数値は平均時間をあらわしています
- ※30分を0.5時間として、小数点第2位を四捨五入し少数点第1位までを表記しています(例えば、1.5時間は1時間30分をあらわしています)
- ※「0時間」の回答者と「無回答」を除いて集計しています(この結果、回答者数が0人となった場合は掲載していません)

●家事の内容

図表 2-16 家事の内容／性別(複数回答)



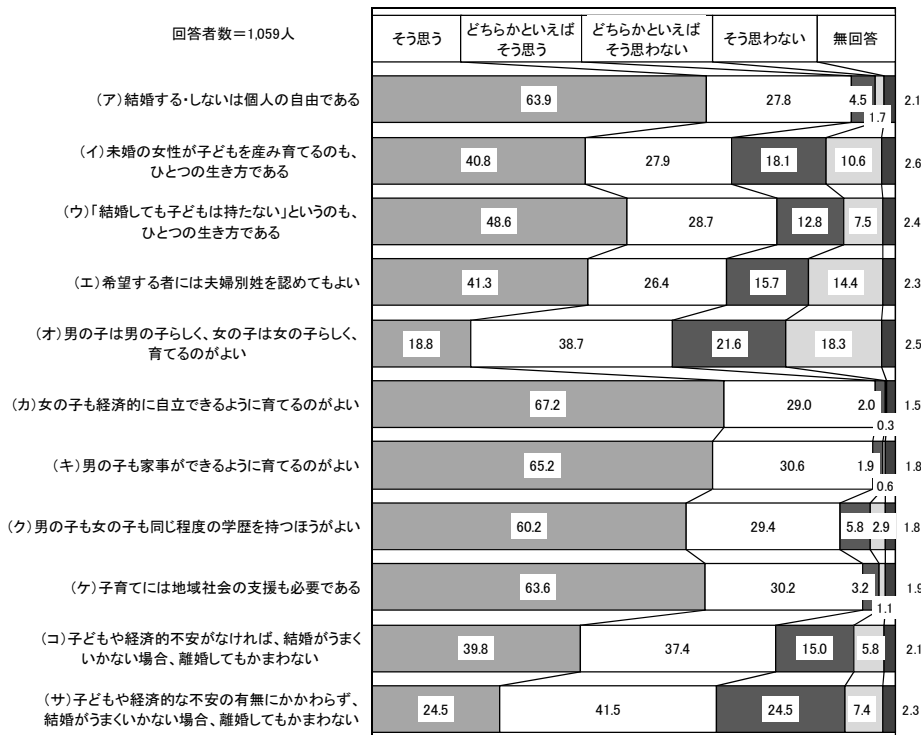
家事の内容について性別で見ると、すべての家事は女性が男性を上回っています。

女性の9割以上が「食事のしたく・後片付け」「食料品・日用品の買い物」「部屋の掃除」「洗濯」の家事をしています。最も高い割合は「洗濯」95.9%となっています。

女性と男性の割合の差が最も大きい家事は「洗濯」、差が最も小さい家事は「ゴミ出し」となっています。

●結婚や出産・子育てに対する考え方

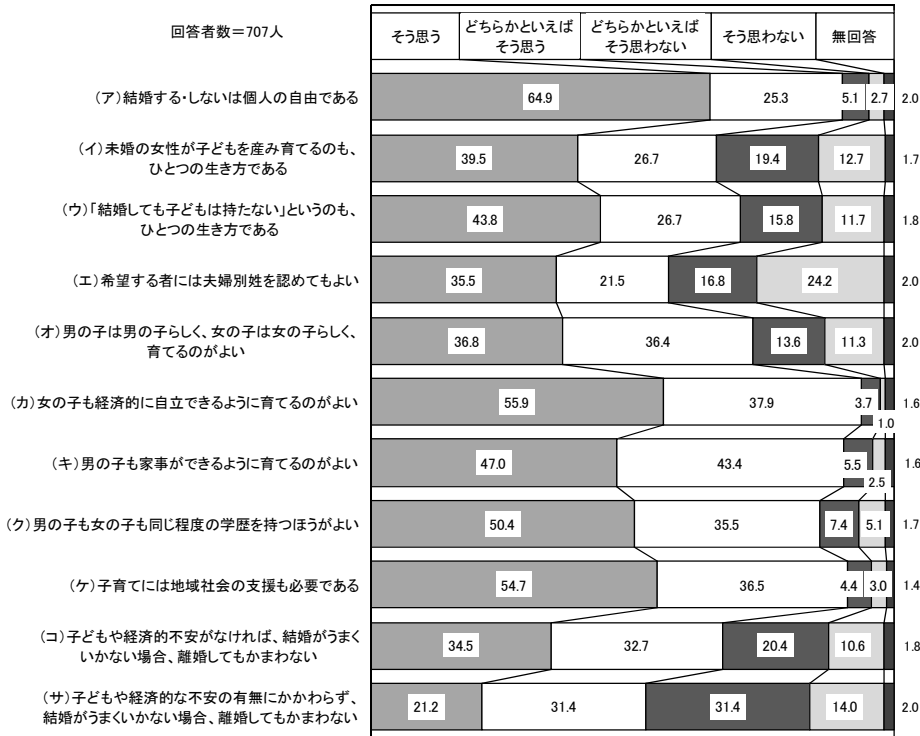
図表 2-18 結婚や出産・子育てに対する考え方／女性



女性における結婚や出産・子育てに対する考え方について、『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)と回答した割合が最も高かったのは、(カ)女の子も経済的に自立できるように育てるのがよい 96.2%、次いで(キ)男の子も家事ができるように育てるのがよい 95.8%、(ケ)子育てには地域社会の支援も必要である 93.8%の順でした。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)と回答した割合が最も高かったのは、(オ)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく、育てるのがよい 39.9%、次いで(サ)子どもや経済的不安の有無にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない 31.9%、(エ)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい 30.1%の順でした。

図表 2-19 結婚や出産・子育てに対する考え方／男性

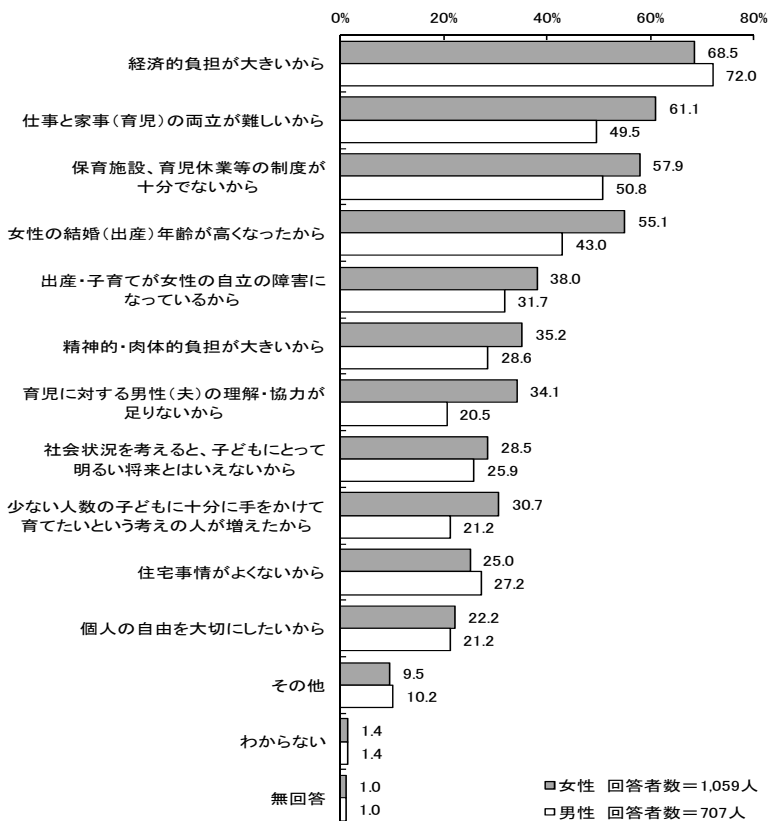


男性における結婚や出産・子育てに対する考え方について、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と回答した割合が最も高かったのは、(カ)女の子も経済的に自立できるように育てるのがよい93.8%、次いで(ケ)子育てには地域社会の支援も必要である91.2%、(キ)男の子も家事ができるように育てるのがよい90.4%の順でした。

一方、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）と回答した割合が最も高かったのは、「(サ)子どもや経済的不安の有無にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」45.4%、次いで(エ)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい41.0%、(イ)未婚の女性が子どもを産み育てるのも、ひとつの生き方である32.1%の順でした。

●少子化の原因

図表 2-37 少子化の原因／性別(複数回答)



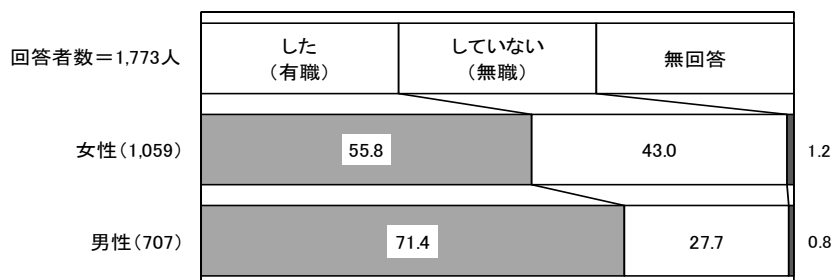
少子化の原因を性別で見ると、女性では「経済的負担が大きいから」が68.5%と最も多く、次いで「仕事と家事(育児)の両立が難しいから」61.1%となっています。

男性では「経済的負担が大きいから」が72.0%と最も多く、次いで「保育施設、育児休業等の制度が十分でないから」50.8%となっています。性別で比較すると、男性が女性を上回っている理由は「経済的負担が大きいから」「住宅事情がよくないから」となっています。

(3) 就業状況について

●仕事の有無

図表 3-2 仕事の有無／性別



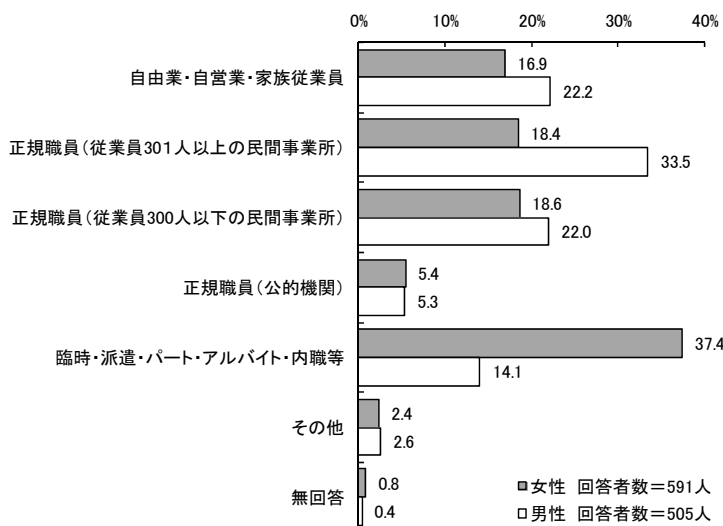
仕事の有無を性別で見ると、女性では「した (有職)」55.8%、「していない (無職)」43.0%となっています。

男性では「した (有職)」71.4%、「していない (無職)」27.7%となっています。

「した (有職)」という人は、男性が女性を 15.6 ポイント上回っています。

●勤務体系

図表 3-7 勤務体系／性別



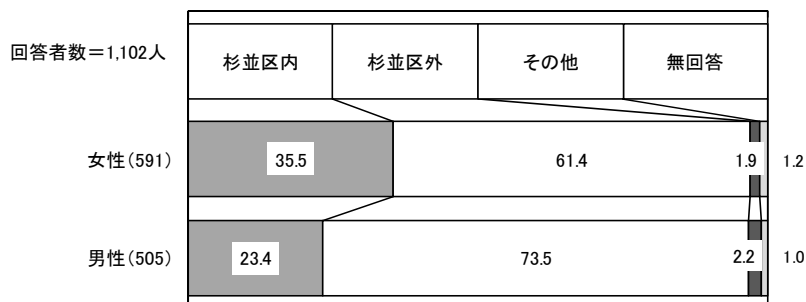
勤務体系を性別で見ると、女性では「臨時・派遣・パート・アルバイト・内職等」が37.4%と最も多く、次いで「正規職員 (従業員300人以下の民間事業所)」18.6%となっています。

男性では「正規職員 (従業員301人以上の民間事業所)」が33.5%と最も多く、次いで「自由業・自営業・家族従業員」22.2%となっています。

「正規職員 (公的機関)」については、女性と男性の割合の差はありません。

●勤務地

図表 3-9 勤務地／性別



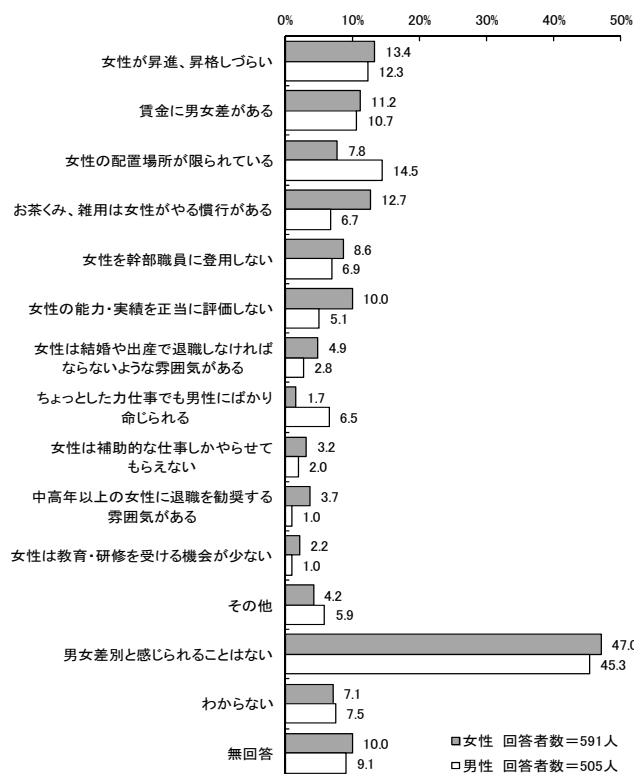
勤務地を性別で見ると、女性では「杉並区内」が35.5%、「杉並区外」61.4%となっています。

男性では「杉並区内」が23.4%、「杉並区外」73.5%となっています。

女性のほうが、「杉並区内」の割合が12.1ポイント高くなっています。

●職場で男女差別と感じられることの有無・具体的内容

図表 3-11 職場で男女差別と感じられることの有無・具体的内容／性別(複数回答)



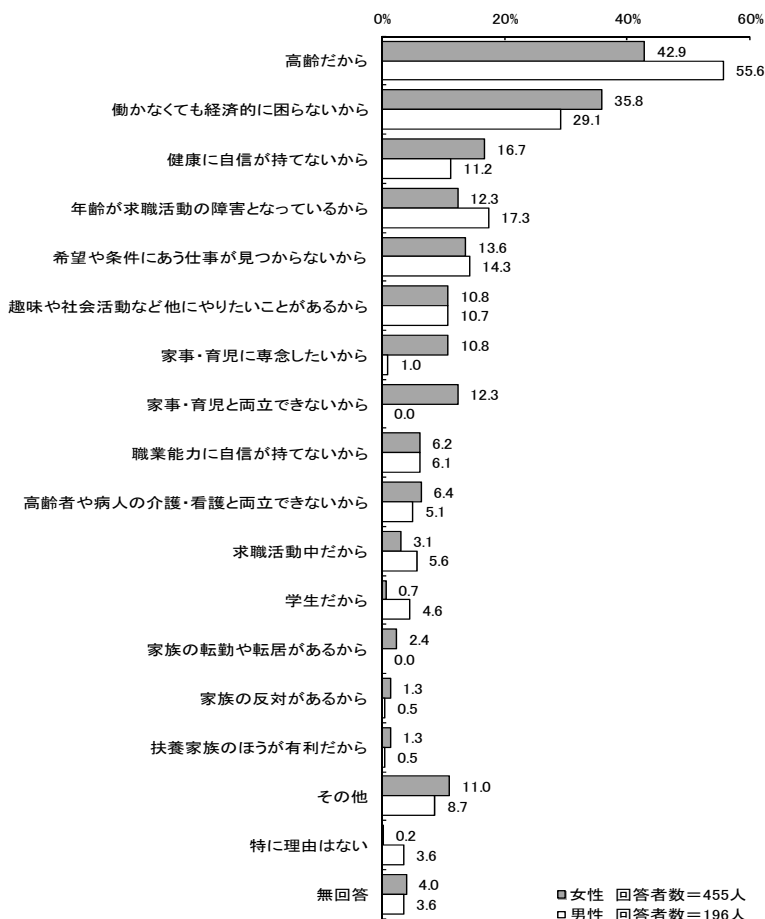
職場で男女差別と感じられることの有無・具体的内容を性別でみると、女性では「女性が昇進、昇格しづらい」が13.4%と最も多く、次いで「お茶くみ、雑用は女性がやる慣行がある」12.7%となっています。

男性では「女性の配置場所が限られている」が14.5%と最も多く、次いで「女性が昇進、昇格しづらい」12.3%となっています。

「男女差別と感じられることはない」と回答した人は、女性が男性を1.7ポイント上回っています。

●働いていない理由

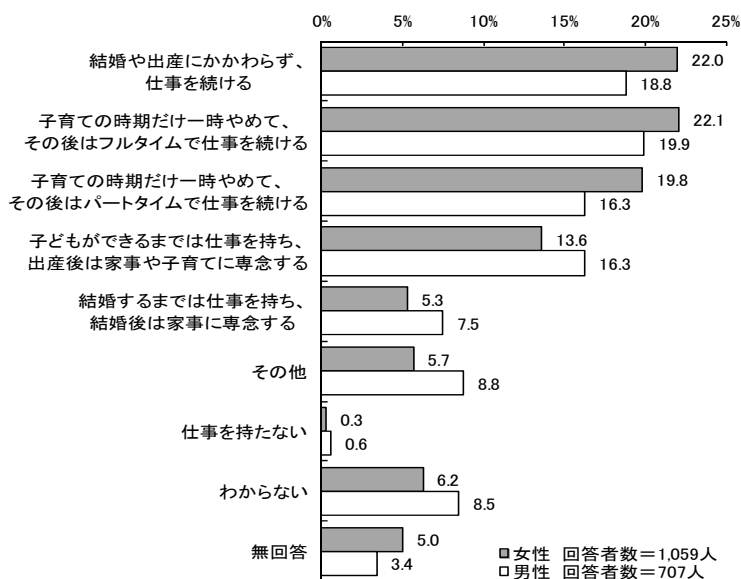
図表 3-13 働いていない理由／性別(複数回答)



働いていない理由を性別でみると、女性では「高齢だから」が42.9%と最も多く、次いで「働かなくても経済的に困らないから」35.8%となっています。男性では「高齢だから」が55.6%と最も多く、次いで「働かなくても経済的に困らないから」29.1%となっています。「高齢だから」と回答した人は、男性が女性を12.7ポイント上回っています。

●女性の働き方

図表 3-15 女性の働き方／性別

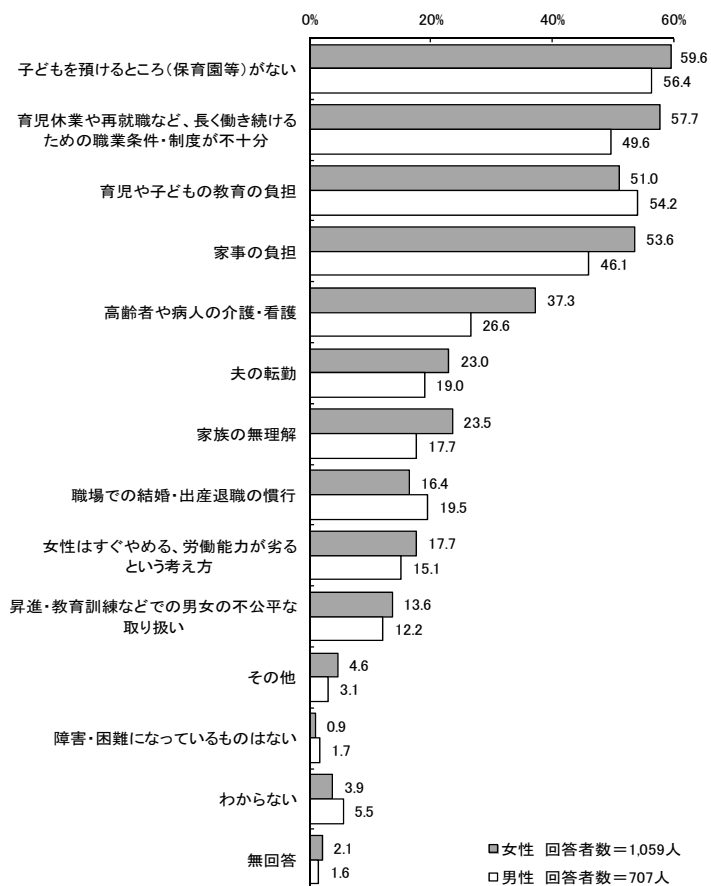


女性の働き方を性別で見ると、女性では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」が22.1%と最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が22.0%となっています。男性では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」が19.9%と最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が18.8%となっています。

「子どもができるまでは仕事を持ち、出産後は家事に専念する」と回答した人は、男性が女性を2.7ポイント上回っています。また、「結婚するまでは仕事を持ち、結婚後は家事に専念する」と回答した人も、男性が女性を2.2ポイント上回っています。

●女性が長く働き続けることの障害

図表 3-18 女性が長く働き続けることの障害／性別(複数回答)



女性が長く働き続けることの障害を性別で見ると、女性では「子どもを預けるところ(保育園等)がない」が59.6%と最も多く、次いで「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職業条件・制度が不十分」が57.7%となっています。

男性では「子どもを預けるところ(保育園等)がない」が56.4%と最も多く、次いで「育児や子どもの教育の負担」が54.2%となっています。

「高齢者や病人の介護・看護」と回答した人は、女性が男性を10.7ポイント上回っています。

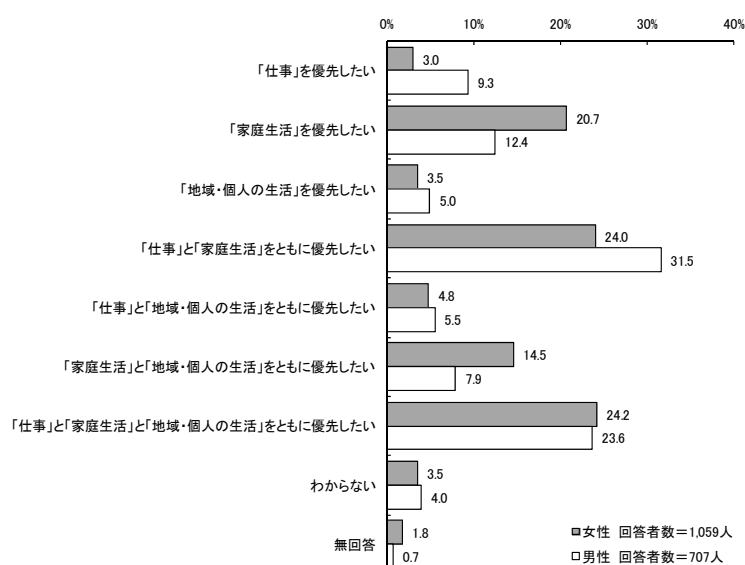
(4) ワーク・ライフ・バランスについて

●生活の中での優先度【希望】

生活の中での優先度【希望】を性別で見ると、女性、男性ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」「家庭生活」を優先したい」が上位3位を占めています。

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」については、女性、男性の差はありませんが、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」では男性が女性を上回り、「家庭生活」を優先したい」では女性が男性を上回っています。

図表 4-3 生活の中での優先度【希望】／性別

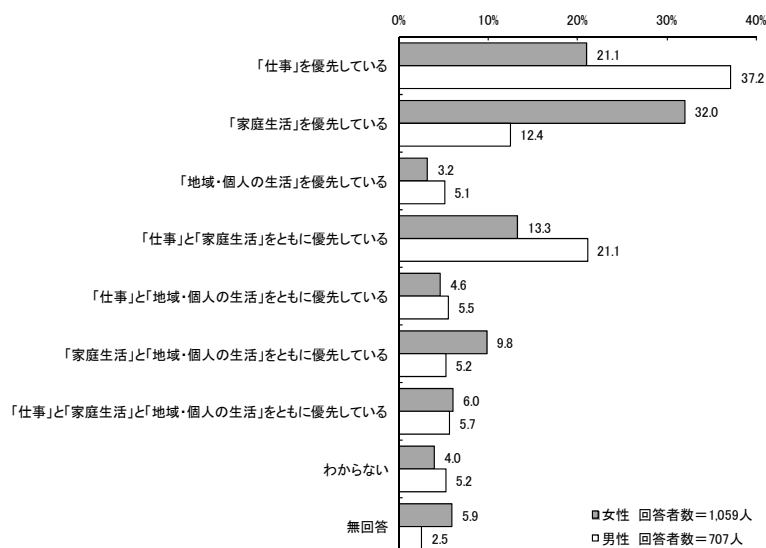


●生活の中での優先度【現実】

生活の中での優先度【現実】を性別で見ると、女性は「家庭生活」を優先している」で男性を 19.6 ポイント上回っています。男性は「仕事」を優先している」で女性を 16.1 ポイント上回っています。現実には男性は仕事、女性は家庭生活を優先している結果となっています。

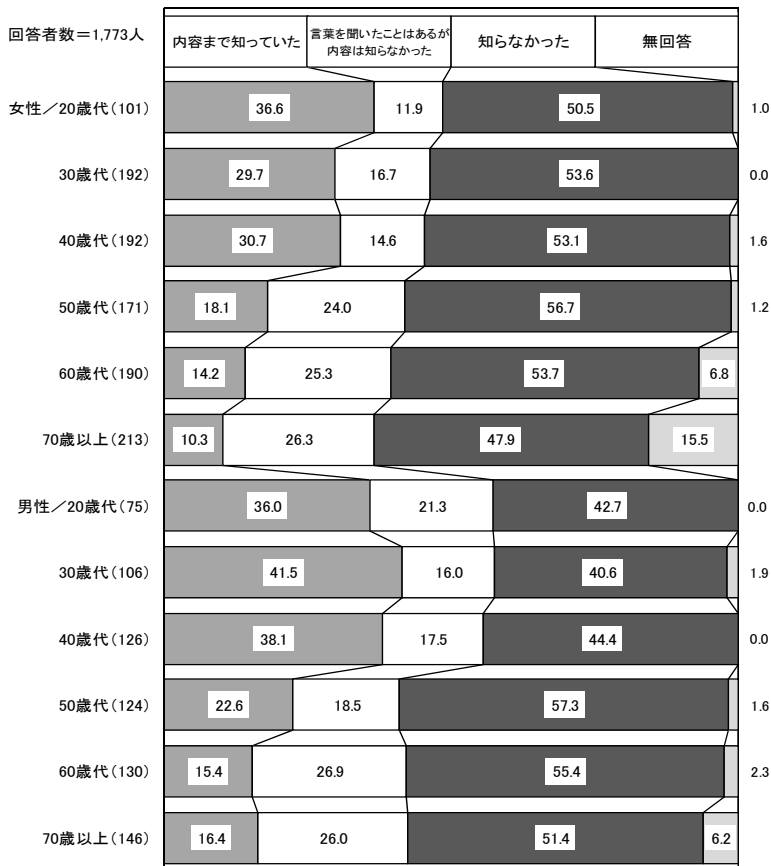
男性において、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と回答している人が 2 割を超えています。

図表 4-7 生活の中での優先度【現実】／性別



●ワーク・ライフ・バランスの認知度

図表 4-12 ワーク・ライフ・バランスの認知度／性別・年代別



ワーク・ライフ・バランスの認知度を性別・年代別でみると「内容まで知っていた」と回答した割合が最も高かったのは、女性では20歳代で36.6%、次いで40歳代で30.7%となっています。

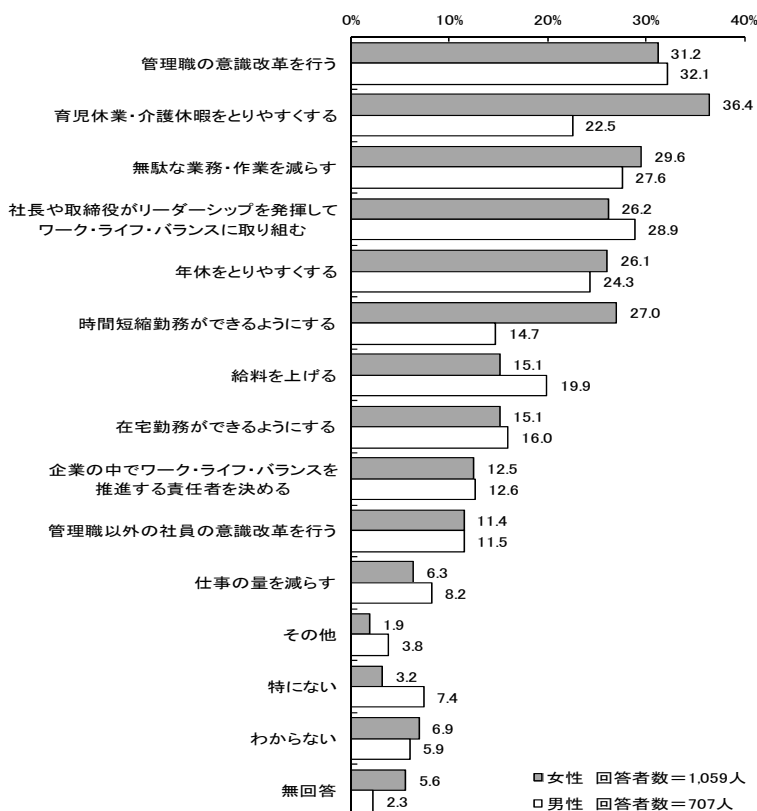
男性では30歳代で41.5%、次いで40歳代で38.1%という結果となっています。

「内容まで知っていた」という回答が最も低い割合は、女性では70歳以上の10.3%、男性では60歳代の15.4%となっています。

女性より男性のほうが認知度が高い結果となっています。

●ワーク・ライフ・バランスのために「職場」に望むこと

図表 4-14 ワーク・ライフ・バランスのために「職場」に望むこと／性別(複数回答)



ワーク・ライフ・バランスのために「職場」に望むことについて性別でみると、女性では「育児休業・介護休暇をとりやすくする」が36.4%と最も多く、次いで「管理職の意識改革を行う」が31.2%となっています。

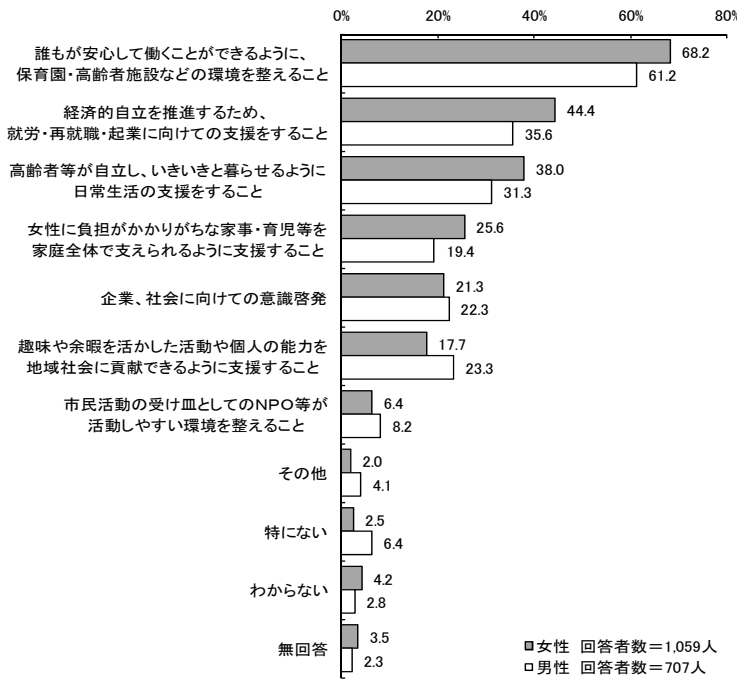
男性では「管理職の意識改革を行う」が32.1%と最も多く、次いで「社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」が28.9%となっています。

「時間短縮勤務ができるようにする」と回答した人は、女性が男性を12.3ポイント上回っています。

「給料を上げる」と回答した人は、男性が女性を4.8ポイント上回っています。

●ワーク・ライフ・バランスのために「杉並区」に望むこと

図表 4-16 ワーク・ライフ・バランスのために「杉並区」に望むこと／性別(複数回答)



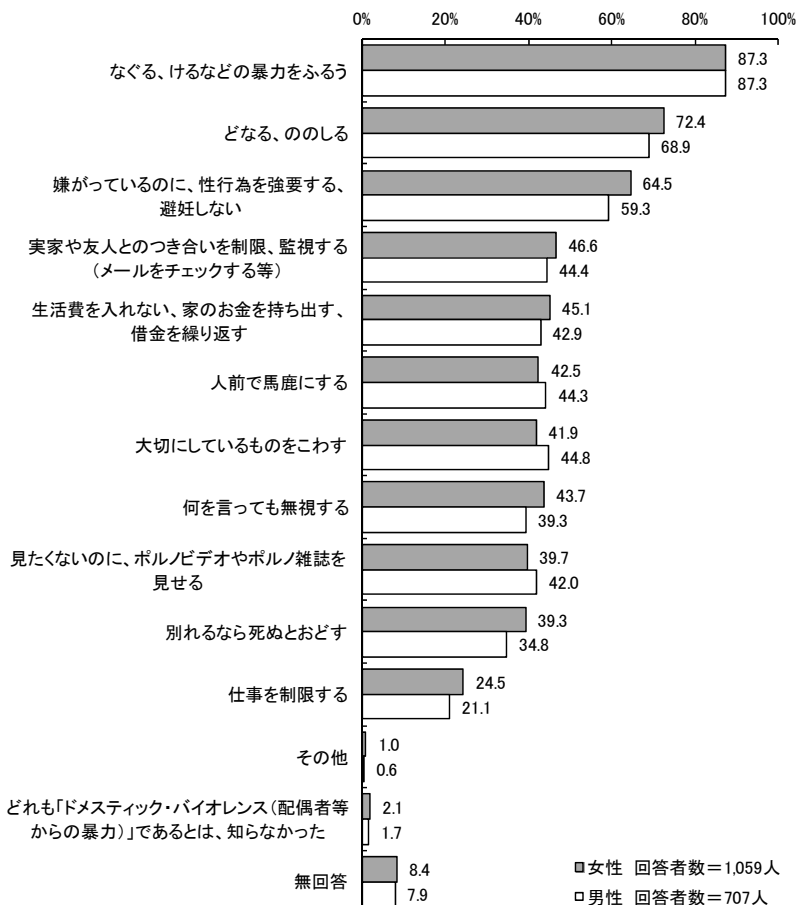
ワーク・ライフ・バランスのために「杉並区」に望むことについて性別でみると、女性、男性ともに「誰もが安心して働くことができるように、保育園・高齢者施設などの環境を整えること」が最も高い割合となっています。次いで、「経済的自立を推進するため、就労・再就職・起業に向けての支援をすること」、「高齢者等が自立し、いきいきと暮らせるように日常生活の支援をすること」の順になっています。

「企業、社会に向けての意識啓発」「趣味や余暇を活かした活動や個人の能力を地域社会に貢献できるように支援すること」「市民活動の受け皿としてのNPO等が活動しやすい環境を整えること」は、男性が女性の割合を超える結果となっています。

(5) ドメスティック・バイオレンスについて

●ドメスティック・バイオレンスの認知度

図表 5-2 ドメスティック・バイオレンスの認知度／性別(複数回答)



ドメスティック・バイオレンスの認知度を性別でみると、女性、男性ともに「なぐる、けるなどの暴力をふるう」「どなる、ののしる」「嫌がっているのに、性行為を強要する、避妊しない」が上位3位となっています。

性別による大きな差はみられません。

●被害経験の有無

被害経験の有無を性別で見ると、女性では「ある」が18.5%、「ない」74.8%となっています。男性では「ある」が7.2%、「ない」86.3%となっています。女性のほうが、「ある」割合が11.3ポイント高くなっています。

図表 5-4 被害経験の有無／性別

回答者数=1,773人	ある	ない	無回答
女性(1,059)	18.5	74.8	6.7
男性(707)	7.2	86.3	6.5

●被害の頻度

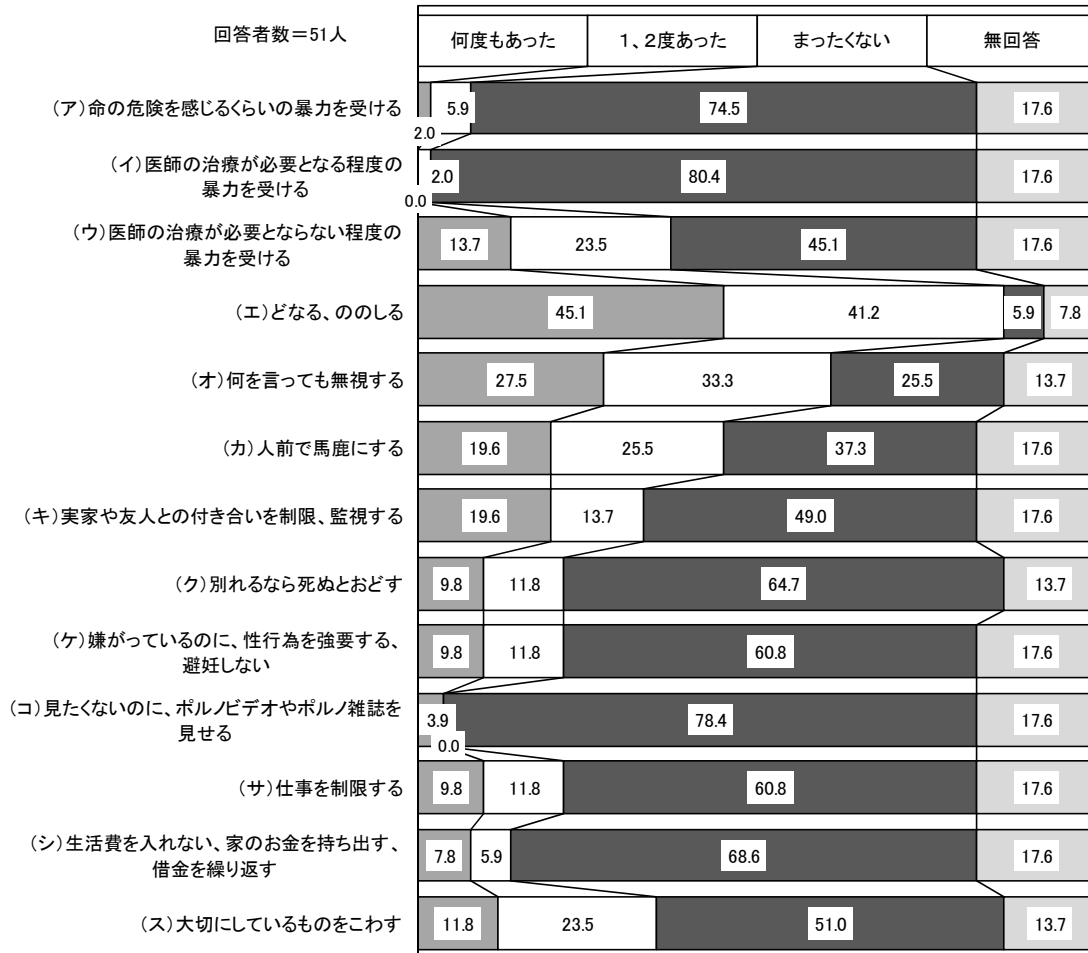
女性における被害の頻度について、「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた割合が最も高かったのは、(エ) どなる、ののしる 74.0%、次いで、(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受ける 41.8%、(オ) 何を言っても無視する 41.3%、(キ) 実家や友人とのつき合いを制限、監視する 39.3%、(カ) 人前で馬鹿にする 38.8%の順になっています。

図表 5-7 被害の頻度／女性

回答者数=196人	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
(ア) 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける	11.7	59.7	26.0	2.6
(イ) 医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける	11.2	61.7	25.5	1.5
(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受ける	15.8	26.0	39.8	18.4
(エ) どなる、ののしる	48.0	26.0	13.3	12.8
(オ) 何を言っても無視する	24.5	16.8	34.7	24.0
(カ) 人前で馬鹿にする	17.9	20.9	39.3	21.9
(キ) 実家や友人とのつき合いを制限、監視する	23.0	16.3	38.3	22.4
(ク) 別れるなら死ぬとおどす	5.6	8.7	58.7	27.0
(ケ) 嫌がっているのに、性行為を強要する、避妊しない	15.3	20.4	40.8	23.5
(コ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	7.1	63.3	26.0	3.6
(サ) 仕事を制限する	10.2	15.8	49.5	24.5
(シ) 生活費を入れない、家のお金を持ち出す、借金を繰り返す	18.9	13.3	45.4	22.4
(ス) 大切にしているものをこわす	10.2	23.0	41.3	25.5

男性における被害の頻度について、「何度もあった」「1、2度あった」をあわせた割合が最も高かったのは、(エ) どなる、ののしる 86.3%、次いで、(オ) 何を言っても無視する 60.8%、(カ) 人前で馬鹿にする 45.1%、(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受ける 37.2%、(ス) 大切にしているものをこわす 35.3%の順になっています。

図表 5-8 被害の頻度／男性

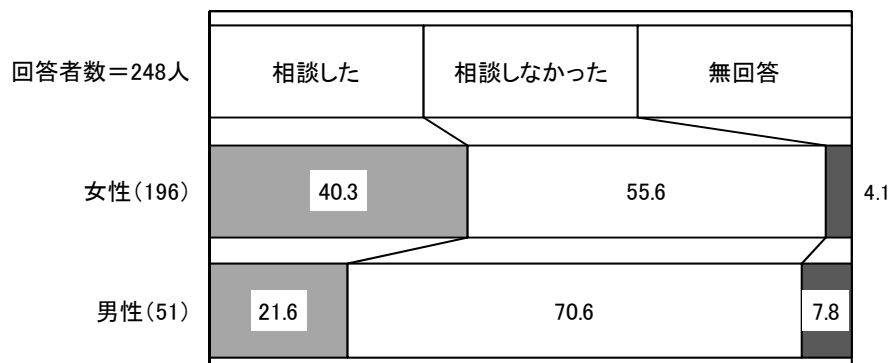


●相談の有無

相談の有無を性別でみると、女性では「相談した」が 40.3%、「相談しなかった」55.6%となっています。男性では「相談した」が 21.6%、「相談しなかった」70.6%となっています。

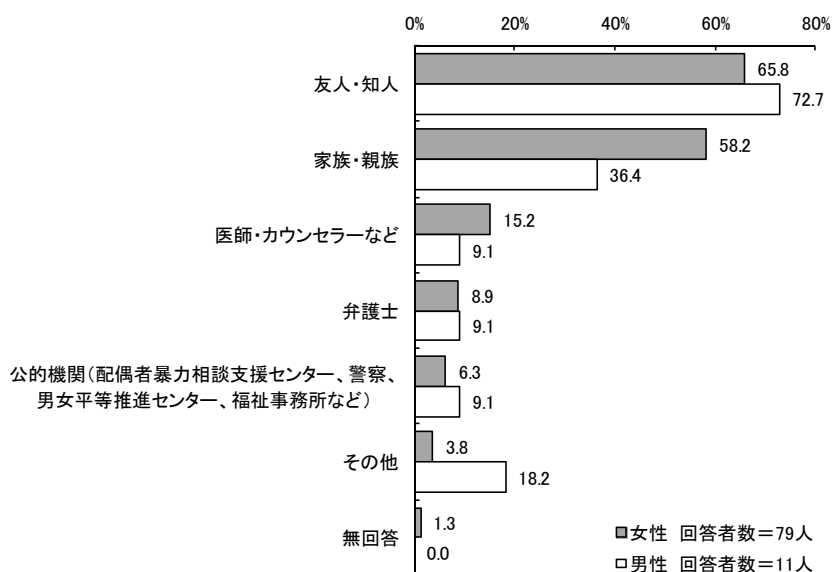
女性のほうが「相談した」割合が 18.7ポイント高くなっています。

図表 5-10 相談の有無／性別



●被害の相談先

図表 5-13 被害の相談先／性別(複数回答)



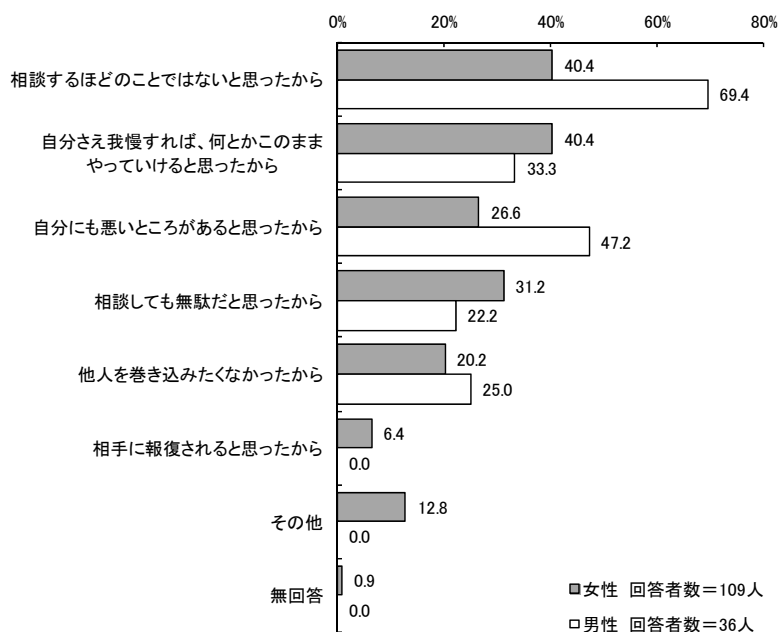
被害の相談先を性別でみると、女性、男性ともに「友人・知人」が最も高い割合となっています。次いで、「家族・親族」「医師・カウンセラーなど」の順になっています。

「家族・親族」「医師・カウンセラーなど」に相談する人の割合は、女性が男性を上回っています。

「友人・知人」「弁護士」「公的機関(配偶者暴力相談支援センター、警察、男女平等推進センター、福祉事務所など)」に相談する人の割合は、男性が女性を上回っています。

●相談しなかった理由

図表 5-15 相談しなかった理由／性別(複数回答)



相談しなかった理由を性別でみると、女性では「相談するほどのことではないと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」がそれぞれ 40.4%と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」31.2%となっています。

男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が 69.4%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」47.2%となっています。

「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「相手に報復されと思ったから」を理由にあげる人の割合は、女性が男性を上回っています。

「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」を理由にあげる人の割合は、男性が女性を上回っています。

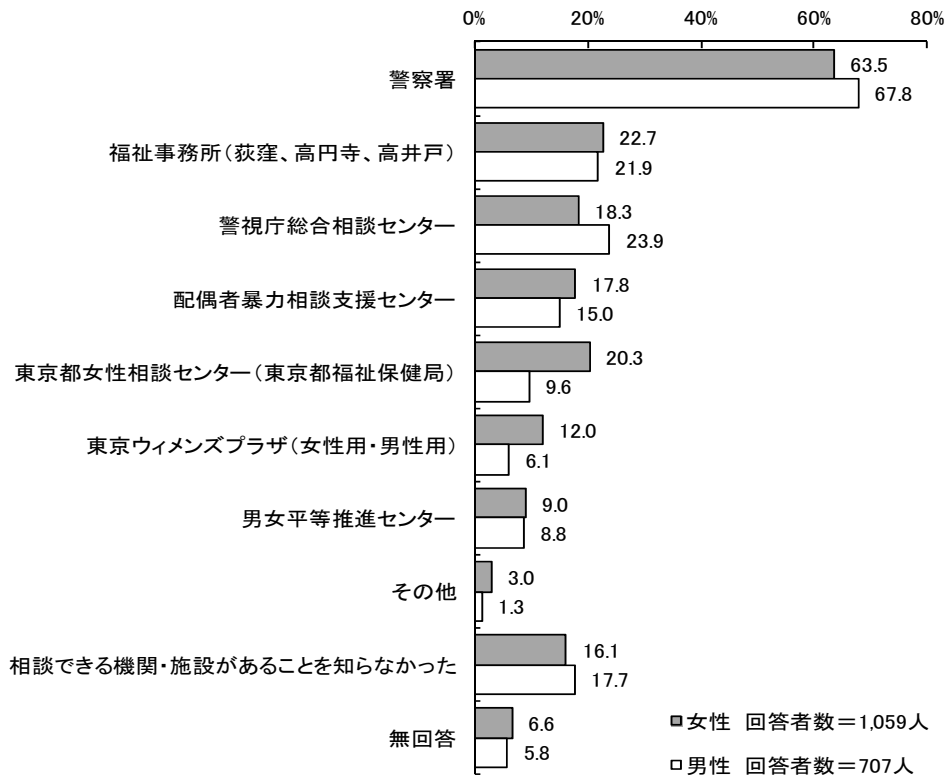
●相談先機関、施設の認知度

相談先機関、施設の認知度を性別で見ると、女性では「警察署」が63.5%と最も多く、次いで「福祉事務所（荻窪、高円寺、高井戸）」22.7%となっています。

男性では「警察署」が67.8%と最も多く、次いで「警視庁総合相談センター」23.9%となっています。

「警察署」「警視庁総合相談センター」の認知度は男性が女性を上回っていますが、それ以外の相談先機関、施設を知っている人の割合は女性が男性を上回る結果となっています。

図表 5-17 相談先機関、施設の認知度／性別（複数回答）



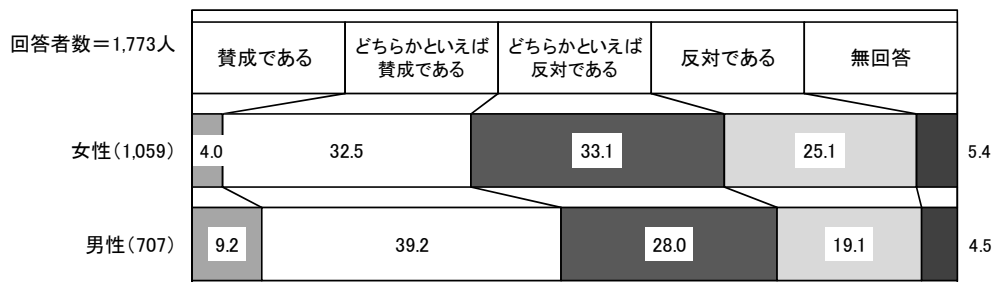
(6) 男女平等意識について

●個人の男女平等意識

「男は仕事、女は家庭」という考え方について性別で見ると、『賛成』（「賛成である」＋「どちらかといえば賛成である」）と回答した人の割合は、男性が女性を11.9ポイント上回っています。

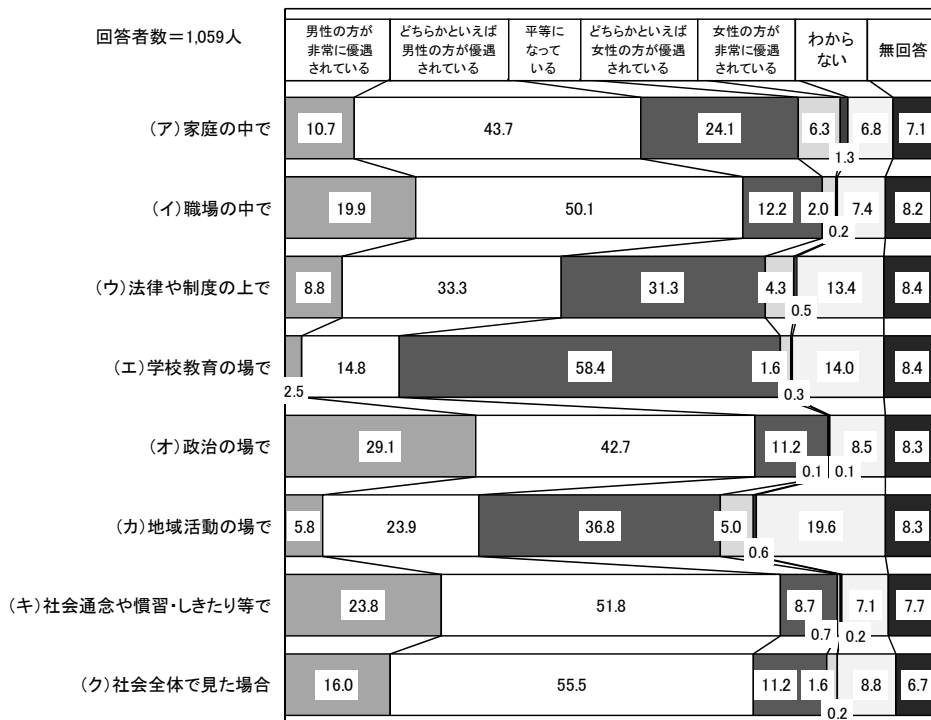
一方、『反対』（「どちらかといえば反対である」＋「反対である」）と回答した人の割合は、女性が男性を11.1ポイント上回っています。

図表 6-3 個人の男女平等意識／性別



●さまざまな場における男女平等意識

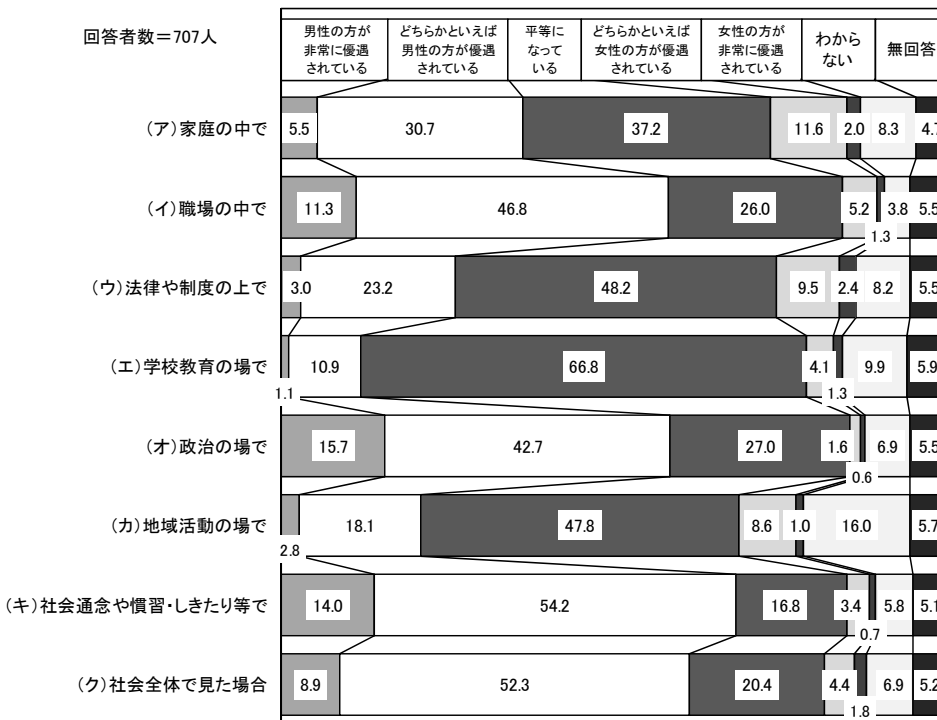
図表 6-7 さまざまな場における男女平等意識／女性



さまざまな場における男女平等意識について、女性において「男性の方が非常に優遇されている」と回答した割合が最も高かったのは(オ)政治の場で29.1%、次いで(キ)社会通念や慣習・しきたり等で23.8%、(イ)職場の中で19.9%となっています。

「平等になっている」と回答した割合が最も高かったのは(エ)学校教育の場で58.4%、次いで(カ)地域活動の場で36.8%、(ウ)法律や制度の上で31.3%、(ア)家庭の中で24.1%の順になっています。

図表 6-8 さまざまな場における男女平等意識／男性



さまざまな場における男女平等意識について、男性において「男性の方が非常に優遇されている」と回答した割合が最も高かったのは(オ)政治の場で15.7%、次いで(キ)社会通念や慣習・しきたり等で14.0%、(イ)職場の中で11.3%となっています。

「平等になっている」と回答した割合が最も高かったのは(エ)学校教育の場で66.8%、次いで(ウ)法律や制度の上で48.2%、(カ)地域活動の場で47.8%、(ア)家庭の中で37.2%の順になっています。

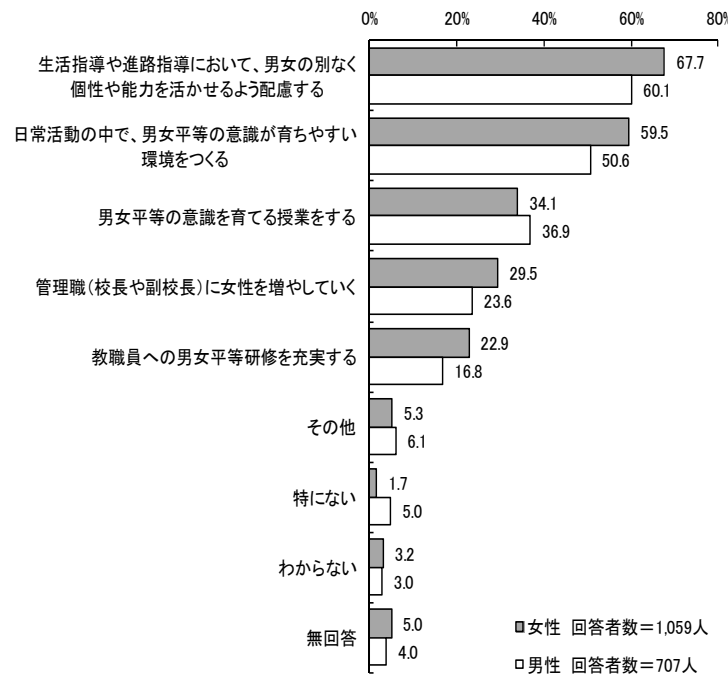
●学校教育における男女平等への有効な取り組み

学校教育における男女平等への有効な取り組みについて性別でみると、女性では「生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を活かせるよう配慮する」が67.7%と最も多く、次いで「日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる」が59.5%となっています。

男性でも「生活指導や進路指導において、男女の別なく個性や能力を活かせるよう配慮する」が60.1%と最も多く、次いで「日常活動の中で、男女平等の意識が育ちやすい環境をつくる」が50.6%となっています。

「男女平等の意識を育てる授業をする」と回答した人は、男性が女性を2.8ポイント上回っています。

図表 6-18 学校教育における男女平等への有効な取り組み／性別(複数回答)



(7) 杉並区における取り組み等について

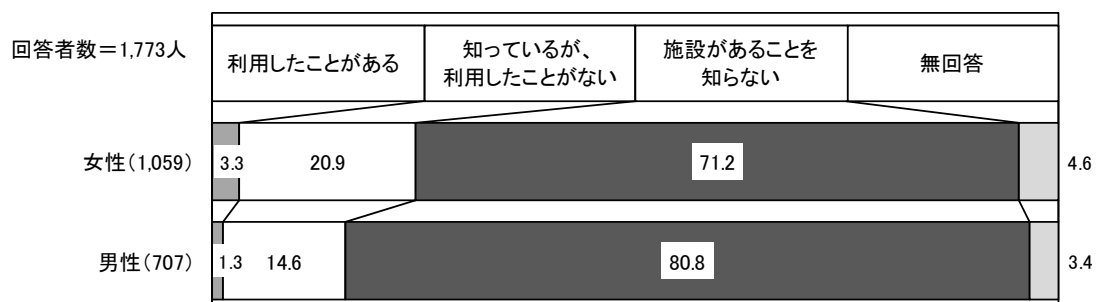
●男女平等推進センターの利用度

男女平等推進センターの利用度を性別でみると、女性では「利用したことがある」が3.3%、「知っているが、利用したことがない」20.9%、「施設があることを知らない」71.2%となっています。

男性では「利用したことがある」が1.3%、「知っているが、利用したことがない」14.6%、「施設があることを知らない」80.8%となっています。

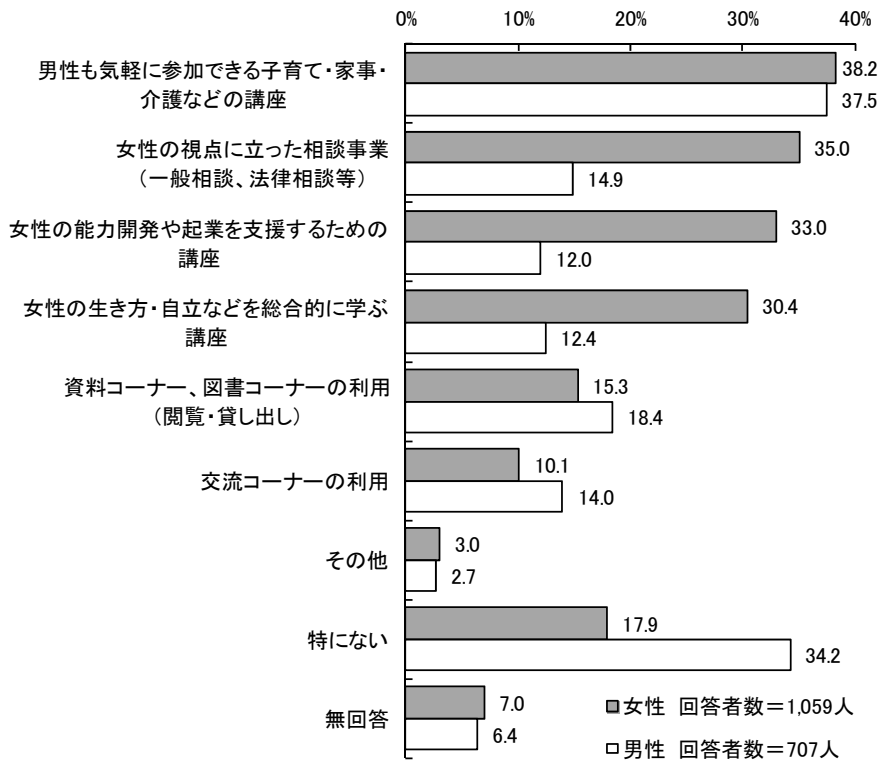
女性のほうが、「利用したことがある」割合が2.0ポイント高くなっています。

図表 7-2 男女平等推進センターの利用度／性別



●男女平等推進センターの利用意向

図表 7-5 男女平等推進センターの利用意向／性別(複数回答)



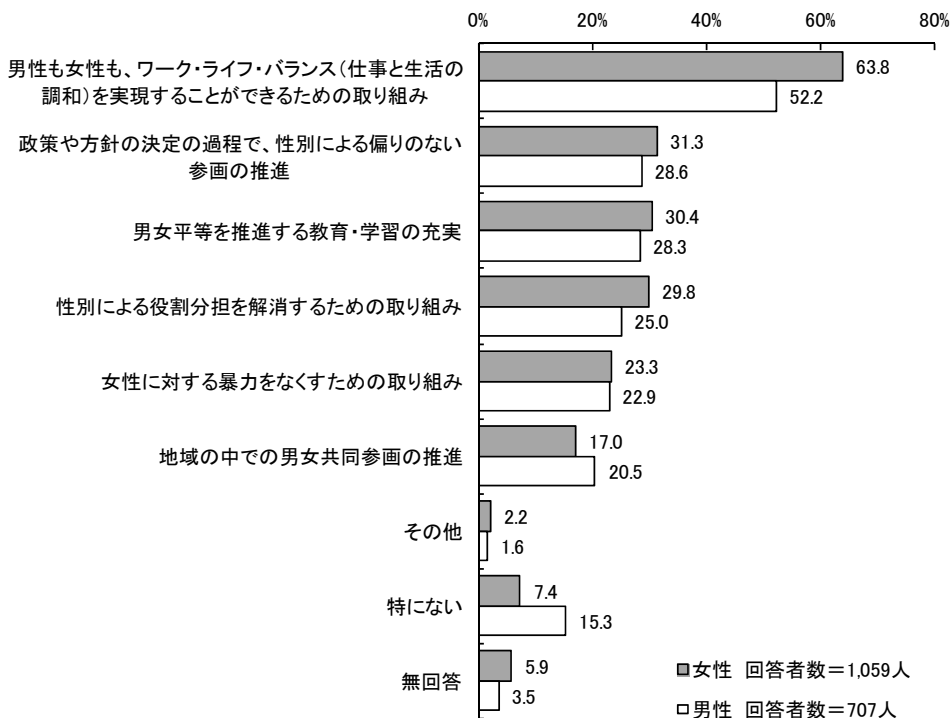
男女平等推進センターの利用意向を性別で見ると、女性では「男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座」が38.2%と最も多く、次いで「女性の視点に立った相談事業(一般相談、法律相談等)」が35.0%となっています。

男性では「男性も気軽に参加できる子育て・家事・介護などの講座」が37.5%と最も多く、次いで「資料コーナー、図書コーナーの利用(閲覧・貸し出し)」が18.4%となっています。

講座の利用意向の割合は女性のほうが男性より高く、コーナーの利用意向の割合は男性のほうが女性より高くなっています。

●杉並区の施策に望むもの

図表 7-8 杉並区の施策に望むもの／性別(複数回答)



杉並区の施策に望むものについて性別で見ると、女性、男性ともに「男性も女性も、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現することができるための取り組み」が最も多く、5割を超える結果となっています。次いで「政策や方針の決定の過程で、性別による偏りのない参画の推進」「男女平等を推進する教育・学習の充実」の順になっています。

「地域の中での男女共同参画の推進」については、男性が女性を3.5ポイント上回っています。

男女共同参画に関する意識と
生活実態調査報告書（概要版）

登録印刷番号

23-0060

平成 23 年 12 月発行

編集・発行

杉並区 区民生活部管理課 男女共同・犯罪被害者支援係

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号

電話 (03) 3312-2111

実施

株式会社 コモン計画研究所

〒166-0015 杉並区成田東五丁目 35 番 15 号

THE PLAZA-F 2 階

電話 (03) 3220-5415

☆杉並区のホームページでご覧になれます。<http://www.city.suginami.tokyo.jp>